

# 轍

わだち



平成 28 年度  
発掘位置

平成 27 年度  
発掘位置

平成 28 年度発掘調査全景

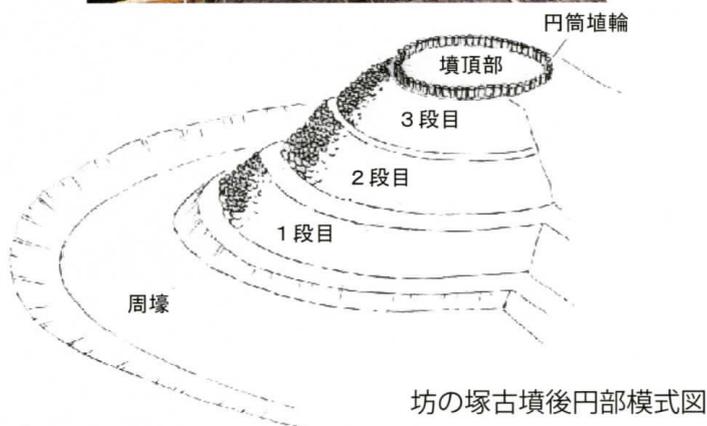
## 坊の塚古墳発掘調査

岐阜県指定史跡「坊の塚古墳」は、各務原台地東部の段丘崖上にある、市内でも中で最も大きい全長約 120m の前方後円墳です。各務原市では、見学施設としての整備も視野に入れながら、古墳の保存を目的とした発掘調査を平成 27 年度より 5 年計画で実施しています。

28 年度の発掘調査では、後円部北東に試掘溝(約 80 m)を掘って後円部墳丘の形状や古墳周囲に掘られた周壕<sup>しゅうごう</sup>などの確認を行いました。調査の結果、3 段の築成を伴った後円部の形状と周壕の位置のほか、墳頂部<sup>ふんちやうぶ</sup>からは築造時に並べられた埴輪列<sup>はにわりれつ</sup>が確認されました。(次ページへ続く)



地表下より顔を出した円筒埴輪



坊の塚古墳後円部模式図

### 坊の塚古墳と円筒埴輪

従来より割れ落ちた埴輪の破片は墳丘の周辺から見つかっていましたが、平成 28 年度の発掘調査では、複数の円筒埴輪の基部が本来設置された場所で初めて確認されました。後円部の端に沿って数百に及ぶ円筒埴輪が生垣のように並べられていた姿が想像できます。直径は約 32cm、高さは上部が破損して分かりませんが、土に埋もれて 40cm 以上が残っていました。

一般的に古墳にみられる円筒埴輪とは、素焼きの土管を立てたような形で高さ数 10cm ~ 1m 程度、胴部を巡る突帯という突き出した帯で数段に分かれ、丸、三角などの透かし窓を開けていることが特徴です。

円筒埴輪は、形状も一定で大量に生産され、しかも造られた時代で特徴が異なることから、古墳が造られた時代を推定する手がかりとなる重要な遺物です。

(前ページより)

斜面の樹木を伐採し表層の土を掘り始めると、すぐにガリッと石の硬い感触がありました。古墳の斜面に並べられた「葺石」です。付近の山から割り出してきたと思われる角ばった石が一面に葺かれた古墳の姿は圧巻で、その保存状態はとても良好なものでした。墳丘には途中に葺石のない平坦面が設けられ、斜面が立ち上がる平坦面との境には、「基底石」というやや大きく平らな石がその上の葺石を崩れないよう支えています。

墳丘の周囲には、深さ 1m 以上の堀（周壕）が巡っています。幅 16 ~ 24m あったとされるこの周壕の上には、現在多くの家が立ち並びその全容をみることはできませんが、周壕の外側から眺める当時の坊の塚古墳は、一面の葺石や段築もあいまって周囲を圧倒する荘厳な姿であったことでしょう。

1 月 29 日に行われた現地説明会では、350 人以上の市民や考古ファンが訪れ、明らかになった古墳の姿に驚きの声が上がりました。



周壕を底まで掘り下げた様子

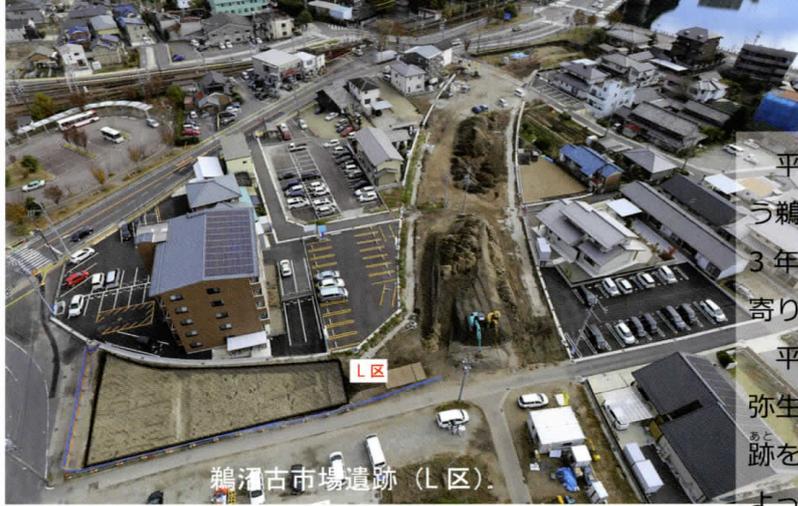


## 鵜沼古市場遺跡発掘調査

平成 26 年より 3 カ年に及んだ犬山東町線バイパス建設に伴う鵜沼古市場遺跡の緊急発掘調査が、28 年度で終了しました。3 年間の調査面積は約 5,670 ㎡、うち 28 年度は建設予定地北寄りの 3 地区 (M,N,L 区)、約 1,040 ㎡の調査を行っています。

平成 28 年度の発掘調査では、過去 26,27 年度に確認された弥生時代の遺構は見られず、主に奈良・平安時代の<sup>たてあなしきじゆうきよ</sup>竪穴式住居跡をはじめとした遺構、遺物が数多く確認されました。時代によって遺構が集中する場所が異なっていたことは大変興味深い結果でした。今なお多くの家屋が立ち並ぶバイパス予定地周辺は、古代から多くの人々が住み続けた集落でもあったようです。

L 区の竪穴式住居跡の 1 つより、市内でも珍しい古代の<sup>てつせい</sup>鉄製<sup>ぼうすいしゅ</sup>紡錘車<sup>ぼうしよく</sup>が出土しました。この住居跡からは他にも金属製品が見つかっており、こうした鉄製品生産または<sup>ぼうしよく</sup>紡織技術に関わる家だった可能性も考えられます。今後、3 年間の出土資料を整理しながら、遺跡の性格や生活の様子などを明らかにしていきます。



鵜沼古市場遺跡 (L 区)



発掘調査の様子 (M 区)



鉄製紡錘車出土状況



鵜沼古市場遺跡 (M, N 区)

### コラム「糸を紡ぐ紡錘車」

紡織の技術は、弥生時代に大陸から伝わったとされています。それまでは繊維を「編む」ことで布が作られていましたが、この新しい技術によって「織る」方法が主流となっていきました。「紡錘車」とは、複数の細い繊維に撚りをかけ、紡いだ糸を巻き取っておく<sup>はし</sup>弾み車を指し、鵜沼古市場遺跡で出土した紡錘車は、鉄製の小さな円盤(紡錘車)に糸を巻きつける心棒を通してあります。

糸を紡ぎ布を織る「紡織具」自体は、主に木製で劣化が著しいため発掘調査での出土例は多くありませんが、「紡錘車」は石製・土製、さらに古墳時代になると鉄製のものも登場し、全国の遺跡から数多く出土しています。鵜沼古市場遺跡の鉄製紡錘車は、出土状況から奈良時代後半～平安時代に使われたものと考えられます。当時の日本に綿はありませんので、おそらく近くに自生する麻などから繊維を取り出し、或いは繭からとった生糸を絹に加工していたものと推測されます。鉄製紡錘車の使用は、平安時代の麻布献納国との関係を指摘する研究もあり、鵜沼古市場遺跡も税として納める上質な布を生産していた地域であったのかもしれませんが。

イラスト:群馬県埋蔵文化財調査事業団 H.P. より一部改変して使用しました。



糸紡ぎの様子

紡錘車



## 真名越遺跡発掘調査

市内の砂利採取事業に先駆けて、真名越遺跡の緊急発掘調査を平成 28 年 10 月～ 11 月にかけて実施しました。真名越遺跡は、現在まで正式な発掘調査はありませんでしたが、奈良～平安時代を中心に古墳時代～中世に及ぶ広い時代の土器などが確認されている遺跡です。

発掘調査では、奈良～平安時代の竪穴式住居跡が計 13 基確認され、遺跡が古代の集落跡であったことがわかりました。それぞれの住居跡からは、当時の人々が調理具として使用していた土師器、食器などとして使用されていた須恵器が多く確認され、古代各務原の住宅の規模や集落の生活の様子が明らかになりました。現在までに発掘調査が行われた「鵜沼古市場遺跡」「三井遺跡」「前洞遺跡」などに続く、新たな市内の古代集落が発見された発掘調査です。



1号住居跡検出の様子



床面が検出された12号住居跡

## 第2次 新加納坪内陣屋跡発掘調査

市内新加納地区の区画整理事業に先駆けて、新加納坪内陣屋跡の緊急発掘調査を平成 29 年 1 月～ 2 月にかけて実施しました。第 1 次調査を行った平成 23 年から、6 年ぶりの調査となります。

坪内氏は、江戸時代に約 6,500 石の知行地を現在の各務原市南西部～岐阜市、岐南町にかけて所領とした旗本（※1）で、坪内氏の宗家がここ新加納に知行地運営のための陣屋（※2）を構えていました。平成 28 年度の第 2 次調査では、前回調査できなかった区画道路の一部を調査しています。

発掘調査では、陣屋の敷地内に掘られた溝や土坑を確認したほか、第 1 次調査で確認している陣屋敷地を囲む壕の延長部分も確認、陣屋が存在した場所をほぼ確定することができました。また、当時の生活をうかがい知ることのできる磁器、陶器類の生活用品も出土しています。

※1 旗本…江戸幕府直参の武家。通常は幕府の役人として江戸で暮らし、幕府の公務にあたる。

※2 陣屋…旗本や城を持たない小大名が知行地を運営するための屋敷を指す。

屋敷であるとともに、警察や裁判、徴税など知行地を管理する現在の役所の役割を担っていた。



陣屋屋敷内の遺構を検出



陣屋を囲んでいた壕の一部

## 各務原歴史セミナー

28年度歴史セミナーは、「川のむこうを眺めてみれば」をテーマに、近いのに普段あまりなじみのない木曾川対岸の史跡や文化財などを取り上げ、全3回の歴史講座を開講しました。発掘調査などからの研究成果を通じて尾張地域の歴史を学ぶとともに、川を挟んだ各務原との関わりについても考える講座となりました。

### ●第1回 平成28年12月3日(土)

「瓦と瓦塔でつながる江南市音楽寺遺跡と各務原の古代—村国氏の領域をめぐって—」

愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究主任 永井 邦仁 氏

### ●第2回 平成28年12月24日(土)

「美濃・尾張の古墳文化からみた各務原の古墳」

南山大学 名誉教授 伊藤 秋男 氏

### ●第3回 平成29年1月14日(土)

「川の向こうの遺跡文化～一宮市の遺跡と各務原～」

一宮市博物館 学芸員 藤井 雅大 氏

受講者 95 人 会場：各務原市立中央図書館4階多目的ホール



第2回歴史セミナー講師  
伊藤秋男氏

## 各務原野外セミナー

平成29年1月25日、先に開講した歴史セミナーと内容を連動した「野外セミナー」を実施、冬の寒い時期でしたが好天に恵まれ、30人の参加者とともに愛知県犬山市の青塚古墳や江南市の音楽寺などを見学しました。歴史セミナーと合わせて受講された方も多く参加され、講義の内容を振り返りながら実際に現地を訪れることで、学習の幅も広がったことと思います。



青塚古墳



音楽寺



一宮市博物館

## 職場体験

市内中学校2校より4名ずつ中学生の職場体験を受け入れました。今年度は、古代の土器や瓦などの水洗いの整理作業のほか、市内の発掘調査と時期が重なったため、発掘調査現場での作業も体験しました。実際に道具を使って遺構の確認、古代の土器などを発見する楽しさとともに、現場でのあいさつ、危険防止のための規律やルールなども学びました。

調査後の真名越遺跡では、ドローン飛行による空中写真撮影を見学しました。大昔の遺跡調査にも最新の技術が使われ、効率的に調査が進められていることが実感してもらえたと思います。

平成28年10月26・27日 中央中学校2年生(4人)  
平成28年11月9・10日 蘇原中学校2年生(4人)



真名越遺跡ドローン撮影の様子

## 埋文体験講座

夏休みの体験講座では新たな試みとして、「古代のアクセサリーづくり」を実施。毎年恒例のまが玉に加え、鶴沼古市場遺跡より出土した石製模造品にちなみ、剣型ペンダントづくりをメニューに加えました。

石製模造品とは、発掘調査で出土した小型の石製遺物で、古代の鏡や剣を石でまねて作ってあります。主に古墳時代の祭祀などに使用されたと考えられるもので、その一部にペンダントに使用したような穴がけられていることが特徴です。

剣型ペンダントはまが玉と同じ材料の滑石を使い、サンドペーパーや彫刻刀で整形し表面に凹凸をつけ、最後にアクリル絵具で彩色して完成です。



まが玉と剣型ペンダント

埋蔵文化財調査センターでは、埋文レギュラーメニュー講座として「まが玉づくり」「古代の火おこし」「縄文アクセサリーづくり」などは年間を通じて随時受け付け、多くの市民の方々に参加していただいています。

また、出前講座として市内の小学校でも「まが玉づくり」を開催し、郷土の歴史文化に触れ、体験する機会を提供しました。



夏休み体験講座「古代アクセサリーづくり」

粘土でアクセサリー作りに挑戦！



### 平成28年度 体験講座参加者数

#### ●レギュラーメニュー講座

- 勾玉づくり (65人)
- 古代の火おこし (7人)
- 拓本しおりづくり (1人)
- 縄文アクセサリーづくり (17人)

#### ●夏休み埋文体験講座

- 古代のアクセサリーづくり (33人)



古代のアクセリーのいろいろについて学びました！

### 館内展示 団体見学 14団体 433人

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 6月22日 稲羽中学校 1年生  | 11月15日 はまゆう会       |
| 8月1日 教職員自主研修     | 11月16日 動く市民教室      |
| 8月6日 各務原寺子屋事業    | 12月1日 中日本航空専門学校    |
| 8月23日 もみの木クラブ    | 1月20日 ヒストリー各務野     |
| 9月1日 中部学院大学      | 1月31日 中部学院大学 経営学部  |
| 10月2日 文化財を守る会    | 2月5日 伊勢湾岸弥生時代研究会   |
| 10月26日 川島中学校 1年生 | 3月15日 社会福祉法人フェニックス |

